別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区塩浜1-3-10
施設名	塩浜保育園

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

積み木

〈テーマの設定理由〉

積み木には様々な形や大きさがある事を知り、そこから得られる遊び方や使い方について積み木遊びを通して、探求心を育てていく。

２　活動スケジュール

・テーブルの上を積み木で埋めつくす。
・ホールからクラスまで積み木を並べて行く。
・興味を示したクラスが積み木遊びをする。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

積み木

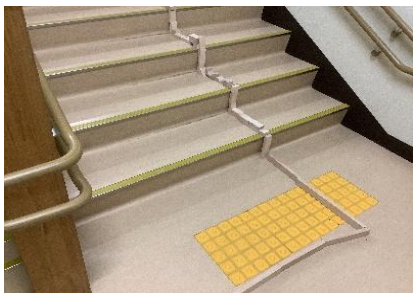
４　探究活動の実践

〈活動の内容〉

第1回：４グループに分かれて机の表面が見えなくなるように積み木を並べていく。（最後にグループごとに積み木を何個使用したか数える）…活動人数18名
第2回：園内廊下を使用して積み木を並べるレースを行う。…活動人数10名
第3回：第２回に実施した積み木活動の延長で廊下や階段に作られた積み木の作品を見ていた２歳児クラスの子どもたちが積み木に興味を示していたので形をレンガ積み木に統一させて提供をした。…活動人数8名

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

【第1回】
・子ども「長いのがいいな」保育者「どうして長いのが良いの？」子ども「いっぱい埋められるから」→長い積み木を使用する利点を理解している子がいた。
・子ども「積み木持ってくるね」「ありがとう。じゃあ並べておくね」と役割分担を行っていた。
・園にある積み木を使い切ってしまい、保育者「積み木無くなっちゃたけどどうしようか」と聞く。子ども「薄っぺらくすればいいんじゃない？」と思い付き、積み木を広い面に置き換えて工夫する姿があった。
・机の色々な場所から各々に積み木を並べている姿があったが、なかなか机を埋められないでいた。保育者「みんな同じ場所から作ってみない？」と声を掛けると、すぐに実践していて、そこから徐々に進んでいった。
・最後使用した積み木を数える際に、大きい数だった為困惑していたが、保育者が箱を近くに用意するとそれに気付いた子が「これを使えばいいんじゃない？」と発見し、その箱に入れながら数えようとしていた。また、保育者が「１が１０で１００個になるよ」と数え方のヒントを教えると、子どもたち同士で「１０ずつ入れれば？」と話し合い、３００近い積み木の数を数えることが出来ていた。
・最後に全グループの使用した積み木の個数を聞き、保育者が「なんで数が違うんだろうね」と尋ねると子ども「積み木の大きさが違うからだよ」と答えていた。→子どもの発見
【第2回】
・１戦目では子たちが思い思いに並べており、階段では隙間なく並べたりしてこだわりが見られた。その中で積み木を大量に使った事で足りなくなってしまう部分が出てしまったので多く使っている所を見極めて並べる姿があった。しかし保育者が早く並べ終わっており負けてしまうと悔しそうにしている子もいた。
・２回戦目を始める前に保育者葉どうして早く並べる事が出来たのかを観察して「壁側で大回りしていない」「最短ルートを並べている」など自分たちで違いを発見していた。10名全員が並べる配置だと人が多いので並べる人と散らばっていいる物を回収する人に役割分担する意見も出た。
・子どもたちで役割を決めて並べる時のコツなどを話あって～２回戦目を始めると１回戦より遥かに早く並べる事が出来ており階段も斜面を利用して大きな積み木を並べて時短で埋めることが出来ていた。
・保育者に助言葉初めだけでほとんど子どもたちが気が付き、それぞれで話し合いをして行くことで２回戦目は保育者に勝つことが出来た。なぜ勝つことが出来たのかを聞くと「みんなで力を合わせたから」と協力でして出来たことを話していた。上手に出来ている人の「上手な所」を真似真似して２回戦ではそのことを生かして取り入れる事が出来ていた。
【第3回】
・保育者が１段目を作ると見真似て１人の子がその続きを作り始めた。
・レンガ調に積み上げる際に「ここに置いたら落ちちゃうから先にこっちを置こう」と子どもたちが発見をして置き方などを共有していた。
・前日に家庭でライオンキングを見た子が「ライオンキングを作りたい」とイメージを広げていたので保育者が援助をしながらプライドロックを作り始めると、どんどん物語が展開していき動物のブロックを置いたり演じながら積み木の世界に入り込んでいた。
・高く積みたい子には保育者が側に付きながら椅子に乗って高さを出せるようにする事で大きな作品を作り上げる事が出来て達成感を味わう様子があった。



５　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

【第1回】・子どもたちの姿や声をよく聞き、記録や反省を行ったことで、普段の保育の中では聞き逃してしまいそうなことにも気付くことが出来た。全体に視野を広げて保育することも大切だが、個々やグループの中のやりとりにも焦点を当てて見ていくことで、より深い発見が出来るのではないかと感じた。
・子どもたちは日々の遊びの中で無意識に“探求”を積み重ねていることがよく分かり、その声に対する保育者の言葉掛けやさりげない援助の重要性を感じた。全て保育者が誘導するのではなく、子どもの好奇心に着目し、そこからどうすれば想像力や探求心が広がるのか考えながら、意味を持った声掛けを行い、子ども主体の保育に繋げていきたい。
【第2回】
・階段や廊下で積み木遊びを楽しんでいる姿を見た乳児クラスの子ども達が魅力的に感じられたようでクラスで積み木遊びが流行していた。他クラスの活動が刺激になりに日々の活動に取り入れられることを実感した。
・子どもたちの意見を尊重して作戦を立てて２回戦目に勝ち事が出来たので子どもたちの自信にも繋がっていると感じた。
【第3回】
・様々な形の積み木を提供していた事で組み合わせにより崩れてしまい遊びが長続きしなかった。同じ形の積み木にした事で崩れにくくなったり量が増えた為、遊び込む事が出来るようになった。第3回の実施後もイメージしやすい物を子どもたちと相談しながら作ったり、次の日まで残して置ける環境設定していく事で子どもたちの表現や発想力を改めて実感する事が出来た。